



第 54 号

2021 年 3 月 25 日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13

(朝日新聞さいたま総局内)

TEL 048-824-8161

FAX 048-831-5310

<http://saicl.net/>

## 第 32 回

## 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト【録音審査】

2021年 2 月 16 日(火) ジュニアの部・ユースの部・レディーの部・一般の部

小学校の部・中学校の部

17 日(水) 高等学校の部

於：朝日新聞さいたま総局 3 階会議室

今年度の埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストは、2月16、17日の2日間、開催方法を「録音審査」に代えての実施となりましたが、皆様のご協力により71団体の参加を得て、無事終了いたしました。

当初は、ホールでの開催を予定しており、会場である久喜総合文化会館の関係者とも協議の上、可能な限りの新型コロナウィルスの感染対策を講じておりました。また、この状況下、101団体もの参加申し込みをいただいておりました。

しかしその後のウィルス感染拡大による緊急事態宣言の発令を受け、やむなく開催方法を変更した次第です。「録音審査」は、県連にとって初めての試みとなりました。参加団体には、あらたに録音したCDを提出していただき、上記の2日間、5名の審査員の先生方に録音を聴いて審査をしていただきました。参加された団体は、どの団体も熱のこもった素晴らしい演奏でした。今回、表彰式は行うことができませんでしたので、審査結果はホームページにて発表、賞状、講評

等は各団体へ送付という形を取らせていただきました。

今回、参加を申し込まれた団体の皆様には、開催方法が急きよ変更になりましたことを心よりお詫び申し上げます。また、緊急事態宣言下、部活動の中止や練習場の閉鎖等でやむなく辞退された団体がありましたことを、大変残念に思っております。

一日も早く新型コロナウィルス感染が終息し、ホールでの開催ができますよう願っております。来年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



録音審査の様子

(常務理事 小林とせ子)

## 第10回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト【音源審査】審査結果

2021年 3 月 6 日(土) 高等学校部門 ／ 7 日(日) 小学校・中学校部門、一般部門

於：朝日新聞東京本社内／読者ホール

## 高等学校部門

【金賞】埼玉栄高等学校コーラス部 A、埼玉栄高等学校コーラス部 B、埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部、川越東高等学校合唱部、埼玉県立川越高等学校音楽部、埼玉県立浦和第一女子高等学校音楽部

【銅賞】栄東高等学校コーラス部、埼玉県立蕨高等学校音楽部

## 小学校・中学校部門

【金賞】栄東中学校コーラス部 B、さいたま市立指扇北小学校合唱部

【銀賞】栄東中学校コーラス部 A、春日部市立春日部中学校合唱部、さいたま市立宮原中学校女声合唱団

## 一般部門

【金賞】Ensemble SAKAE、Sopra il fiume、男声合唱団APERTASS



# SVECを振り返って

福永一博先生インタビュー 2021.2.17

於：埼玉県合唱連盟事務局

インタビュー記事の冒頭に、合唱界において現在、最も注目を集める指揮者・福永先生のプロフィールをご紹介いたします。

群馬県ご出身で、早稲田大学に進学、さらには国立音楽大学、東京藝術大学にて学ばれました。藝大在学中、合唱愛が高じて2年生の4月に藝大生を中心とした有志による合唱団を創設。これが後に世界的な合唱団「ハルモニア・アンサンブル」となるのです。その後、藝大大学院声楽専攻に進ますが、独唱者になることよりも合唱活動のために学びを深めたいという想いからの進学だったそうです。そして先生がおつくりになった「ハルモニア・アンサンブル」はこれまでに、第40回トゥール国際合唱コンクール（仏）においてグランプリ・聴衆賞を受賞、2012年ヨーロピアン・グランプリ、2013年南フランス国際合唱フェスティバル、2014年第10回世界合唱シンポジウムに日本を代表して招待されるなど輝かしい実績を重ねていらっしゃいます。

—福永先生には『SVEC(埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト)』のご審査後に、インタビューをさせていただきました—

**佐々木**) 最初に福永先生が大学時代に合唱団を創設された理由を教えていただけますか？

福永先生（以下敬称略）「指揮者がいて、合唱団員がいて、指揮者の音楽を団員皆で実現していく」のではなく合唱団をつくりたかったのです。1人1人が音楽を発信していくことに重きを置いて活動すれば、きっと面白い音楽ができる、その可能性が高いのではないか？という想いからでした。



4月に合唱団結成、7月に合宿、9月にコンクール。結果は残念ながら銀賞でした。声楽的技術やアンサンブル能力の高いメンバーが集まれば短期間でも作品を仕上げができるというものではない。そのことを強く実感する良い機会になりました。

時間をかけてお互いの人間性や音楽性を理解し、意思の疎通を重ねることで本当のアンサンブルを実現しよう。そう考え、週に1回の定期的な練習を始めました。3年目までに海外のコンクールにも挑戦しようという目標を設定し地道に練習を重ねていったのです。翌年には全国大会にて金賞を受賞、そして仏トゥール国際コンクールでグランプリ受賞。その後藝大大学院に進学し、修士演奏・論文はシューマンの歌曲「詩人の恋」でしたが、声楽家になるのではなく、合唱活動のために音楽の学びをより深めることを目的とした進学でした。修了後には合唱の世界で生きていきたいと強く考えていたのを憶えています。

**佐々木**) ソリスト志向の極めて強い藝大で、そこまで合唱を愛していたというのは異色であり、凄いことだと思います！

続いて「SVEC」についてお伺いしたいのですが。

福永) コロナ禍で満足な活動・練習ができない環境・状況の中で埼玉県合唱連盟では70を超える多くの団体がアンサンブルコンテストに参加されたということは本当に素晴らしいことだと思います。一方で参加できなかった団体の悔しさを考えると、一日も早くこの状況が収束することを祈るばかりです。

制限の多い練習の中でも、これだけのハイレヴェルな演奏を、録音ではありますが拝聴できたことは本当に喜びでした。

さて、録音審査に関して、審査後に他の審査員も仰っていたことです。

録音は、録音する場所、録音機器、録音レベル等、各団体様々な違いがありますが、審査をする側は、それらを自分の中に取り入れ「補正」しつつ全ての団体を条件・環境の良し悪しで審査しない努力をする必要があります。同じラインで比較しなければ審査になりませんから。そこが非常に難しかったところです。音楽の素材を厳密に比較することの難しさ、そして限界を感じたことも事実です。

**佐々木**) 審査員の先生方が皆さんの演奏を一度ご自身の中に「引き取り」、そして条件の違いを「補正」しながら審査してくださっていたのですね。出場団体の皆さんが持っていた最も大きな「不安」を解消できたのではないかでしょうか。

福永) 特に上位で接戦の団体は、ライブで聴いても審査が難しいのに、録音審査では更に難易度が上がってしまい、難儀いたしました。

**佐々木**) 演奏についてお願ひします。

福永) ハーモニーを決めようとするあまり、音楽が滯る団体がありました。ハーモニーを「縦」と考えれば、音楽の「横」の流れがスマーズではない、「横」の意識が希薄な演奏が多いかなと。音楽の構築感、その音楽が持つ全体像が見えにくい。その部分・部分に囚われているわけではないのだけれども、フレーズが何処へ向かっているのか？フレーズとフレーズがどのように有機的に繋がっているのか？全体としてどのような「地図」「構築感」をその作品が持っているのかが見え難い演奏があったように思います。

他の先生も仰っていたことですが、レガートに歌おうという意識が強いことはとても大切です。しかし、レガートの意識が強いあまりフレーズの音価が等価になりやすいという弊害も出てきます。絵の具をベタッと塗ったような感じで均等なフレージングになった団体が多くありました。音と音の繋がりを工夫し、その多様性をしっかりと認識していくと、レガート唱法の更に一步先へと進めると思います。

**佐々木**) 最後に福永先生が審査をなさる上で基準・観点を教えていただけますか？

福永) 以下の3点です。

- ①演奏の「精度」。作品を演奏するうえで、基礎的なハーモニーやリズム、フレージング、アンサンブルとしての「確かさ」が実現できているか。
- ②演奏の「濃度」。その作品が求めている表現、その曲の良さを引き出すための表現がなされているか。
- ③演奏の「切実性」。その曲をどうしても演奏したい！演奏しないではいる！その必然性が感じられるか否か。

以上3点を高次でバランスよく実現できているのか？を大事にしています。

これらは①→②→③と成長して進んでいくわけではなく、同時に並行で進んでいきます。たとえば発声練習に於いては、音階的発声練習を機械的にではなく、如何に美しく歌うか、音楽的なフレージングを実現するかに心を砕きます。発声練習が実際の演奏には使えない発声を繰り返し、定着することになってしまっては残念ですよね。技術的な側面と音楽的な表現が有機的に結びつくことを常に考える必要があります。

最後に、今回の録音審査をしながら考えたのですが、コロナ禍に於いて録音や録画の機会が増えていかざるを得ないと考えます。もちろん音楽は「生」「ライブ」に勝るものはありません。しかし、この録音・録画を前向きに活用することは大事だと思います。収録をすると客観的に自分たちの演奏と向き合うことができますよね。練習の段階から録音・録画を活用し、客観的「気づき」を得ることができ、より客観性の高い演奏実現の一助とすることができます。

**佐々木**) 審査後、お疲れのところ多くの示唆に富む素晴らしいご助言、ご指摘をいただきました。本当にありがとうございました。

インタビュー：常務理事 佐々木憲二

撮影：埼玉県合唱連盟



# 「日々あたらしく」誕生！

合唱を愛する皆さま、お元気でしょうか？昨年来のコロナ禍の影響でなかなか思うように合唱活動ができず、さまざまな苦難の日々が続いておりますね。

当連盟にとっても、この影響は甚大なものがありました。当初は、いち早く中止を決め、できるだけ迅速にそれをお伝えすることに力を注いでおりましたが、途中から「コロナを正しく恐れること」を維持しつつも、「工夫してやっていく」という機運が高まってまいりました。そのような中、全日本合唱連盟より「コンクールはすべての大会を中止に」という通達が届いたのです。ある程度の予想はしていたものの、まさかこうなるとは…というのが当時の私共の正直な気持ちでした。

そして、頭をよぎったのは小中高の最高学年児童生徒たちのことでした。今年のコンクールを目標に頑張ってきた人たちには少なくないはず。それが目の前で水泡のように消えていったのですから。「来年できればいいさ。」と言える立場の方々もいらっしゃいますが、「この仲間たちと歌えるのは今年しかなかったのにいー」という立場の人も多かったのです。

そこで、コンクールに代わる何か良い方策はないものかと考え、いろいろな方々と相談しながらこの度の「リモートによる委嘱作品の初演」を行う運びとなりました。

委嘱は「明るく前向きで希望が持てるような曲を」という要望で、埼玉県に所縁（ゆかり）のある作曲家の土田豊貴さんにお願いしました。作曲期間わずか3ヶ月という無謀な条件にもかかわらず、土田さんは新川和江さんの詩集「わたし



の中にも」から「日々あたらしく」を見つけ、しっかりと応えてくださいました。種類は同声二部・混声三部・混声四部・女声三部・男声四部の5種類あり、どれを同時に歌ってもきれいに響くよう作っていただきました。また、リモート演奏の基となる指揮と伴奏の録画撮りにも立ち会い、曲に関するコメントの撮影では、「ただ明るく元気なだけでなく、祈るような気持ちも込めて作りました。」と言っておられます。

心配していた経費はクラウドファンディングの形をとらせていただきましたが、2月初日に公表してから2週間余りで目標の30万円に到達しました。ご支援してくださった方々は児童生徒の先輩や保護者の方、県内外の合唱愛好家の方々など、さまざまであるとのことです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後は、この曲を総会時のリモート初演を皮切りに、みんなでどんどん歌っていきましょう！

（理事長 小野瀬照夫）

## 作曲者 土田 豊貴先生ってどんな方？？？

コロナ禍でステージがなくなった小中高生のために〈リモート合唱〉で新曲初演したい！

このクラウドファンディングが立ち上がり作曲を依頼するにあたり、真っ先にお名前が上がった作曲家が土田豊貴先生でした。

埼玉県にゆかりがあり、沢山の学校合唱部にも新曲を作曲されています。

最近では第87回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部、課題曲「彼方のノック」も作曲され、今ノリにノッている若手作曲家の一人です。

作曲家と言ったらとても気難しいイメージ（私の勝手なイメージです笑）だったのですが、土田先生は気さくで明るく、とてもおおらかな方です。

私も個人的な付き合いがあり、自分が代表をつとめる男声合唱団APERTASSに新曲を書いていただいたことがあります。

その際は何度も練習に立ち会っていただき、作曲家から直にレッスンを受けるという貴重な体験もさせていただきました。

た。団の良さがより出るようにと何度もマイナーチェンジをしてくださったりと本当にお世話になりました。

団員達との飲みニケーションにも気さくに参加してくださいって、みんながとても喜んでいたのをよく覚えています。

そんな土田先生がコロナで辛い思いを強いられている小中高生のために、新曲「日々あたらしく」を作曲してくださいました。

とても温かな気持ちになる素敵な曲をみんなで歌い、子供達に少しでも前向きな気持ちで日々をおくってもらえたならと願っております。

最後になりますが、素敵な曲を書いてくださった土田先生、プロジェクト立ち上げに賛同をしてご支援くださった多くの方々に感謝申し上げます。

（理事 松川 大）



土田 豊貴先生（左）と松川理事（右）



# 第44回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会について

3月6日(土)に予定していた令和2年度の「第44回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会」は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言に伴う全日本合唱連盟からの要請を受け、5月2日(日)同会場(和光市民文化センター)開催へと延期いたしました。

その後、全日本合唱連盟より5月開催も中止、6月以降への延期を要請されました。6月には県合唱祭があることにより、おかあさんコーラス埼玉県大会の開催は難しい状況となり、予定通りの5月2日に開催方法に変更を加えて実施することになりました。大会名称は「彩の国女声コーラスフェスティバル2021」、感染防止のため客席で互いに聴き合うことをやめ、演奏だけを行い、出演後は帰宅という形を取ります。歌う機会を失った昨年度ですが、今回は無事に開催出来ることを祈りつつ、皆さまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

(常務理事 須田信男)



よもやま

## 永年出場表彰団体四方山話

### ドマーニ

団長・副団長2名

20名の団員と共に毎週木曜日に活動。

合唱教室から自主グループ、ドマーニ誕生。おかあさん全国大会2回(ひまわり賞1回)・県コンクール、知事賞他・全日本合唱コンクール(関東大会銀賞)・海外演奏会4回など、様々な経験をさせていただきました。厳しい練習のなかにも笑いありで活動し、本番当日は心をこめて「楽しく歌おう」と声掛けしながら頑張ってきました。

2020年2月下旬から6月上旬まで、活動禁止でした。感染予防のため施設利用前に検温、手指の消毒、練習の際はマスク着用(フェイスシールド～現在は不織布に立体マスクフレームで)感染予防策に万全を期した上で、県大会に向けて練習しています。

今年は少しでも明るい日々になるよう、コロナ感染拡大の一日も早い終息を願い「距離」という新たな規範が生まれ、集まることも、触れあうことも出来ずにいる「今」、以前のように生き生きと笑顔で歌っていた日が待ち遠しく思います。



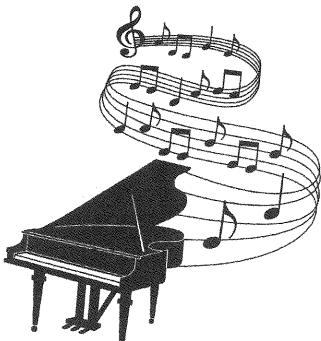
### アンサンブル・ソアーヴェ

団長代理 荒川 清江

- ・月3回8名で活動。
- ・これまでの活動で団員募集に頭を悩ませられましたが、気持ちをひとつにアンサンブルがとけ合った時は、嬉しさ一入です。

仲間と歌う楽しさを分かち合いたいとの思いからテノール歌手・石川隆彦先生のご指導のもと、互いに共鳴し合うことを目指す女声アンサンブルグループです。

新型コロナウイルスの影響により、現在活動を休止しておりますが、歌うことは何よりとの思いは強く、早く練習が再開できるよう願っています。



### 大宮コール・ヴァイオレット

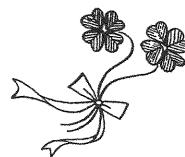
代表 関 順子

大宮コール・ヴァイオレットは、さいたま市立大宮北小学校PTAコーラスのメンバーにより1980年5月に創立され、1991年4月石川先生をお迎えし現在に至っております。

1994年埼玉県合唱連盟に仲間入りし、合唱祭、コンクール、おかあさんコーラスに参加、他団体の皆様から沢山の刺激を受け、先生の理想とされる音楽に少しでも近づくよう、きめ細かなご指導を頂いております。

世界の名曲、日本のうた、童謡などさまざまな曲を毎水曜日の午前、明るく楽しく練習にはげんでいます。

時が過ぎ、高齢化に伴う不都合で団員は10数名と減少傾向ですが、歌うことは健康の源と信じ、オバサマ達元気に歌い続けます……。





## 埼玉・芸術家シリーズ

# ～「感動の質」を追求して！～ 鈴木憲夫物語

Pause53号でお届けした「連盟歌制作秘話」。今回は連盟歌を作曲された鈴木憲夫先生にスポットを当てます。お若い頃から埼玉県で活躍され、今や全国を股にかけた売れっ子作曲家です。先生への紙面でのインタビュー形式でお話をうかがいました。

### 《幼少期の思い出》

子供の頃より手近にあった楽器で遊んでいました。ギターなど器用に弾いたものです。初めての作曲はギターの曲でした。



小学4年生の頃

ヴァイオリン、ピアノも始め、中学ではフルートにも親しみました。中学2年には「ヴァイオリン小品」や「ピアノ小品」などを好きに自由に作り始めました。高校ではプラスバンドの指揮、仙台ユースオーケストラではコンサートマスターを務めました。とにかく音楽大好き少年でした。

### 《作曲を志したきっかけ》

中学2年の時に出会ったベートーベンの「大フーガ」に接し強烈な衝撃を受けました。ベートーベンの音楽から哲学さえ感じました。それが生涯の憧憬となったと思っています。高校卒業までに弦楽四重奏、管弦楽曲の作曲まで手を伸ばしたりしていました。

### 《影響を受けた作曲家、指揮者は》

作曲の技術取得のためにベートーベンの楽曲分析などを独学で勉強しました。ストラビン斯基をはじめ多くの近・現代の作曲家が興味の対象でしたが、師事した伊福部昭先生、團伊玖磨先生、指揮の山田一雄先生には言い尽くせぬほどの薰陶を受けました。

### 《合唱音楽に対する思い》

若い時代の私の興味の対象は器楽でしたが「私なりの個性とは」と自己問答の末、自身でテキストを書き始め29歳の時に完成させたのが混声合唱曲「地蔵礼讃」です。以後自身のテキストによる「祈禱天頌」「永久二」と続きます。「歌うとは」祈りの世界に通じるものです。私が伝えたいことは「祈り」です。「般若心経」そのものをテキストにし、実際に四国をお遍路して作曲した「巡礼」、また2019年の「レクイエム」など



小学5年生の頃

そのひとつひとつの経験が私には得難い修練の場でありました。

### 《作曲活動の中で最も感動した出来事、思い出に残ったエピソード》

たくさんの方々と出会いそれぞれに多くの感動をいただきました。ただ時に自身の道に迷いがかった時、その都度、私の作品に思いを寄せ、励ましをくださった方々を思い、そういう人のために音楽を作っていました。その思いは今も変わりません。

初めての刊行物は29歳の時の「永証の朝」です。当時無名の新人の作品は注目を浴びることなく、大作と言える「地蔵礼讃」の出版が難航しかけた時、カワイ編集の松野満男氏が「鈴木作品は日本の風土の中で生まれた世界観を持ち、これを世の中に出すのは出版社の務めだ」と編集長に掛け合ってくれたことが忘れられません。これを聞いた妻は「やっと憲夫さんを認めてくれる人が現れた」と声を出して泣きました。私の作曲家人生はそういうところから始まったのです。



### 《全国から見た埼玉県の合唱の取り組みについての感想》

全国を歩いて思うことは、軒並み「温度が高い」とは思いますが「成熟度」に段差があることも否めません。合唱は「緻密さ」が要求されます。その意味で埼玉県は「力のある指導者」が多くレベルが高いと感じます。さらなる切磋をかさね琢磨してほしいと期待します。

### 《所感など》

コンクールの現状に憂いを感じます。「技を競う」ことが目的になってはならず、私は「感動の質」をこそ追求すべきと考えます。感動とはそこに「人を感じる」から感動するのです。その人の「思い」に触れてこそ感動するのです。「思い」のないところからは何も生まれません。優しさや思いやりに満ちて平和を願い、愛に満ちた素晴らしい音楽の世界を、皆さんとともに目指して行きたいと切に思うところです。

～ありがとうございました～

(理事 浅子 元)



# 『おんがく広場』はこうして生まれた！

男声合唱プロジェクトYARO会&男声合唱団コール・グランツ 加藤 良一

日本で初めて新型コロナウイルス感染症が発表されたのは、令和2年1月でした。その後、瞬く間に蔓延し、4月7日緊急事態宣言が出されると、世の中のあらゆる活動は中止を余儀なくされてしまいました。もちろん音楽活動も例外ではなく、とくに音楽を生業としている専門家にとって大変な痛手となりました。

指揮者の武田雅博さんがfacebookに「フリーランス音楽家の悩み」と題するメッセージを投稿されたのは、それから間もない頃でした。その主旨は、今や自粛要請で合唱愛好家は大変な状況にあるが、それ以上にフリーランスの人達は、生活が懸かっており大変厳しい事態に追い込まれていることに思いを致して欲しいという熱いメッセージでした。

「皆さんにお願いがあります。合唱の先生は、いったいどうしているでしょう。想像してみてください。もしも先生が合唱指導や演奏活動だけで食べている、フリーランスのプロの合唱指揮者なら…。もしも先生が若手の合唱指揮者なら…。先生が大金持の息子、娘なら心配無用です。しかし現実は…3月中旬あたりから収入はゼロ。今後の見通しは立たず。家賃をはじめ経済的に追い詰められている頃なのではないでしょうか。僕くらいの年代になると、多少なりとも蓄えもあり、何とか生きていけますが、若い合唱指揮者たちが心配なのです！ 今、彼ら彼女らを経済的に救えるのは、皆さんしかいないと思うのです。」

このメッセージに私は打たれました。合唱愛好家も苦しい。しかしフリーランスの音楽家はそれ以上の苦境に立たされていました。合唱文化を絶やさないために何かできないか。そんな思いが『おんがく広場』発行のきっかけとなりました。しかし、発信するにしてもfacebookやtwitterなどのSNSをやら

ない方々にどうやって伝えるか、必ずしもネット環境を使える方ばかりではありません。また、SNSは一般に画像しかアップできない上に、画像では新聞のような小さい文字はよく読めません。しかし、それをPDFにすればきれいに見えます。

そこで、画像とPDFの2種類を作り、SNSには画像を、私のホームページには両者を掲載しどちらも見られるようにしました。PDFを紙にコピーし団内などで配布して頂ければ、ネットができない方にも伝わりやすくなると考えたのです。実際そのように活用しているとの声も届いています。創刊から8か月で121号にまで達し、70名ほどの方々に執筆頂きました。改めてお礼を申し上げます。

『おんがく広場』に大きな影響を与えたものがあるひとつあります。それは4月25日に立ち上げられた、facebookの公開グループ「ポストコロナの合唱活動を考えよう」です。仙台の指揮者・千葉敏行さんが管理人となって運営していますが、瞬く間に1500人以上のメンバーが集まり、コロナ禍での合唱活動に対して様々な情報が交換されるようになりました。1月現在2200人超が登録しています。これを読みの皆さんもぜひご参考ください。

**おんがく広場 第74号**

令和2年(2020)5月10日発行  
発行・クリエイター 鹿野和也・藤原一郎  
監修 rkato@max.hi-ho.ne.jp

『ハーモニー』複刊50周年  
全日本合唱連盟会報「ハーモニー」創刊から50年を迎えた、おめでとうございます。

JCA エースブライア、合唱資料セミナーなどの事業を展開しています。  
また企画企画、連想企画など、多くの企画を毎回開催しています。  
今号の特集は、「おんがく広場」で、この「おんがく広場」が創刊されて以来、これまでの歩みを振り返ります。また、各号の特集を紹介しています。

今号の特集は、「おんがく広場」で、この「おんがく広場」が創刊されて以来、これまでの歩みを振り返ります。また、各号の特集を紹介しています。

おんがく広場は1971年10月1日発行。本文は複数枚、32頁でした。「ハーモニー」に先駆けて1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」が1号で「独立総合開かれる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されました。

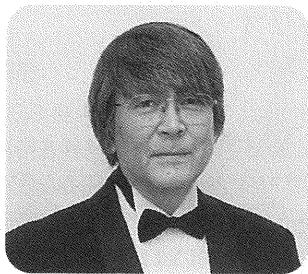
『おんがく広場』→  
<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>

『ポストコロナの合唱活動を考えよう』→  
<https://www.facebook.com/groups/222840199011862>

監修 ウィンドアンサンブル  
来年の演奏会自撮して活動開催！



# Tact vol.31



指揮者 金井良次

教員生活 5 年目のときに、私の音楽人生街道はひとつの中路を迎えることになりました。赴任先の大宮高校で音楽部の顧問を務めることになったのです。学生時代を含めもっぱら管弦楽と吹奏楽に情熱を注いできた私には、特段の合唱指導経験はありませんでした。当時すでに県内有数の合唱校として知られた部活動でしたから、その日を境にまさに死にもの狂いの日々が始まりました。コンクールはもちろんのこと、講習会や研修会には県の内外を問わず駆けつけ、合唱経験を積みました。その頃に出会えた高名な指揮者の方々からの公私にわたる格別なご指導は、今思返しても幸甚にたえません。めざしたのは、モダンで先駆的、パワフルで情熱に満ち溢れたセンセーション

ナルな演奏。生徒とともに学び、高め合った大宮高校の 9 年間は、まちがいなく私の音楽指導の礎となっていました。

その後、新設・大宮光陵高校へと異動しましたが、同時にそれは合唱活動との決別を意味しました。もともと指揮とコントラバスを専門とし、合唱経験を積みながらも、都民交響楽団で活動していた私にとって、オーケストラ設立に関わることは、新しい学校づくりの構想とあいまって必然的なことだったからです。

私の人生に再び合唱指導が舞い戻ったのは、転勤から 16 年目のことでした。大宮高校音楽部の卒業生たちが私の名を冠した RK 放送合唱団を起ち上げ、常任指揮者として迎えてくれたのです。団員のほとんどは、私がこれまで出会ってきた生徒たちと、彼らの友人・知人・親族です。年 1 回開催される演奏会では、オーケストラやプロの音楽家たちとの共演も含め、魅力的なステージを創造できていると自負しています。

振り向けば、私が歴任した学校は東京音大や東邦音大等を含め、全 12 校となりました。非常に多くの生徒・学生が、音楽家として、また音楽の喜びを教える教師として世の中に羽ばたいている姿は、私に大きな喜びをもたらしてくれています。そんな喜びを胸に、私の音楽人生街道はまだまだ続くようです。

## ※※※ それぞれの周年記念 ※※※

10周年

春日部市民混声合唱団  
団員一同



2009年10月、熟年初心者を中心にスタートした“春混”は、コロナ初波押し寄せる直前の 2 月 23 日、〈10周年演奏会〉を催すことができました。総出で駆け巡りやっと揃えた来場者用予備マスク・抗菌ティッシュ・消毒液…。今でこそ すっかりお馴染みの光景となりましたが、マスクと手袋の受付嬢が待ち受ける 貼り紙だらけの受付は、とても異様なムードでした。

埼玉県文化振興基金・Beyond2020認証も頂き、県担当者と試行錯誤して迎えた当日でした。来場を諦めた方が大勢いらした一方で当日券 70 枚！満席のお客様にせめて快い一刻をひとと、舞台前いっぱいの水色の花たちで、せせらぎをあしらいました。水の時代といわれる“令和”に因んで～水～をテーマに選曲。アカペラ混声四部「どじょっこふなっこ」に始まり、合唱組曲の金字塔ともいえる「水のいのち」でフィナーレを歌い上げました。ついでにちょっと背伸びして、パレストリーナ「神よ 鹿が水を欲するように…」も…。

柔らかな照明が彩りを添え、何より、団員が心をひとつにして演奏に集中している姿に感動した、など、嬉しいお言葉も戴きました。これからも仲間を大切に、幅広いジャンルの曲へ和やかに楽しく挑んでいきたいと思います。それにつけても にくい あんちくしょうは コロナ おまえだ!!





## ♪ 私たちの場所

Stage

### 埼玉県立春日部高等学校音楽部OB合唱団

団長 植竹 純平

私たち2014年に春日部高校音楽部のOBで結成した団体（当然ですが全員が男性）です。団員は25名で、半分が大学生、残りのほとんどが社会人5年生以内で構成されています。結成当初は春高現役生と合同合唱をするところから始まり、今ではOBだけでも春日部市内の公民館で練習をし、2019年にはコンクールで金賞をいただくことができました。我々の強みは、各団員が様々な大学合唱団や社会人合唱団で得た経験をもちより、「OB合唱団」としての歌を作るところにあります。歌いこむ過程では、詩の理解や表現方法について白熱した議論が起きますが、最後は年次に関係なく学友として、ステージも会場も一つとなる、力強くも優しい歌声を届けます。



### 淑徳与野高等学校音楽部

部長 長谷川舞香

私たち音楽部は、高校2年生10名、1年生15名、中学生6名の計31名で活動しています。今年度は例年より人数が多く、さらに活気の溢れる活動ができるることを期待していましたが、未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大により、文化祭などの学校行事やミニコンサートが中止になったり、普段の部活動も制限されたりと、思うように活動することができませんでした。

そのような中で、今般、アンサンブルコンテストが開催され、参加できることを大変嬉しく思います。ご尽力いただいた連盟・関係の皆さんに感謝申し上げたいです。

来年度は新型コロナウイルスが少しでも収束に向かうことを願いつつ、前向きに、できる範囲で活動の場が広げられたらと思います。



埼玉県合唱連盟公式

Twitter



Facebook



編集  
後記

Pause54号をお届けいたします。一年に及ぶコロナ禍の中、各種行事が中止・延期となっています。この時期だからこそ取り組みや、埼玉・芸術家シリーズなどをご覧下さい。今後も皆様の豊かな合唱ライフをお手伝いします。

(理事・浅子 元)

### コーロ・ルリオ

団長 小日向 健

私たちの合唱団は17年前川越牧声会のOG・OBを中心に、故、牧野 統先生に師事された宮寺 勇氏を指揮者に迎えコーロ・ルリオ(イタリア語で7月に生まれた合唱団の意)として発足しました。

宗教曲・牧野 統作品を中心とした合唱祭、川越市合唱祭等活動してまいりました。2年前には15周年記念演奏会を盛況のうちに終えることが出来ました。創立団員の年齢も上がりましたが新しい仲間も増え和気あいあいとアンサンブルを楽しんでいます。

しかし、コロナ禍の中練習もままならず苦境に喘いでいます。何とか乗り越え全員が無事に集まり生ある限り歌い続けていけるよう、コーラスをもっと楽しめるよう、出来得ればもう一度演奏会をなどと妄想しています。早くステージに立ちたい！ 皆さん頑張りましょう。



### 熊谷市立富士見中学校音楽部

鈴木 菜桜

富士見中学校音楽部では、「いい顔 いい声 いい心」をモットーに活動しています。私たちは学年問わずとも仲が良く、個々の歌唱の完成度を上げるために積極的にアドバイスをし合うなど、みんなで高め合える仲間です。新型コロナウイルスの影響で、思うように練習ができない時期もありましたが、歌えることに感謝しながら、限られた時間の中で、一丸となって全力で練習に取り組んできました。また、部活動の時間以外でも、個々でできることを考え、努力を重ねてきました。合唱を通して、音楽部が私たちの大切な場所だという気持ちがより高まりました。みんなの目標である金賞が受賞できるように、今までの努力を発揮し、合唱したいと思います。



ボラスの総合住宅展示場

探せる・試せる「家づくりのぜんぶ」

体感すまいパーク 東浦和

POLUS

4棟のモデルハウスで  
注文住宅の魅力を体感！

住まい価値創造企業  
**POLUS**  
ボラスグループ

体感すまいパーク東浦和

TEL 048-638-5566

埼玉県さいたま市南区大字大谷口1990番地1

